

コスモス 9月号

第67巻 第9号

◆宮柵ニカレンダ―(6) 九月の歌

山川の鳴瀬なるせに対かひ遊びつつ涙にじみ来あり
がてぬかも
歌集『小紺珠』

「砂のしづまり」一連五首。宮柵二の戦後の第一声。以下の詞書が付されてある。「昭和二十年八月十五日戦争終了す。九月七日復員、八日離浜して九月、黒部谿谷に入る。(以下、略)」

一首目、「たたかひを終りたる身を遊ばせて石群いはむらかれる谷川を越ゆ」は少し硬く、観念的でもあるが、四首目の掲出歌に至り、心情の吐露、抒情の表白たり得ている。山川の瀬鳴りの音を体いっばいに聴きながら、今確かに自分がここに在る現実をあり難く、喜びとして抱き締めている。
(奥村晃作)